

文教産業委員会

付託議案の審査

◆議第86号

高山市学校教職員住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正（特定公共賃貸住宅の一部の学校教職員住宅への変更、学校教職員住宅の一部の廃止）

現在の教職員住宅の
入居状況は。

現在、10棟34部屋あるが、そのうち、荘川学校教職員住宅2号に

3名、本郷学校教職員住宅2号に10名、栃尾学校教職員住宅1号に8名入居している。

今回、どのような基準で廃止を決めたのか。

答特に基準は定めておらず、それぞれの施設の状態を確認し、老朽化や今後の修繕の必要性等を鑑み検討した。

廃止となる教職員住宅の今後の対応は。

答基本的には建物を撤去し、土地の売却等を検討しているが、廃止する施設の中には、学校や保育園に隣接しているところもあり、一体的に土地の有効活用ができないか検討していく必要もある。

行政視察の報告

11月10日、大野郡白川村にある白川郷学園（白川村立白川小学校・白川中学校）で、小中一貫教育についての視察を行いました。



小・中をつなぐ「ふれあいブリッジ」



小中学校を併設し、小中一貫教育に取り組んでいる白川郷学園

【概要】

●児童生徒数（平成26年）

- 小学校：96名
- 8クラス（特別支援2）
- 中学校：61名
- 4クラス（特別支援1）

●学校統合と校舎建設

白川小学校の児童数減少に加え、平瀬小学校が複式の小規模校であったことから、小学校の統合とあわせ、小中一貫教育に取り組む「白川郷学園」が平成23年に発足した。



児童生徒が互いの校舎を行き来する「ふれあいブリッジ」

【小中一貫教育の取り組み】

①共通の教育目標、指導理念により、9年間の学びの連続性を

大切にする教育

②教員の兼務辞令による小中の交流と連携

③教科教室（教科独自の学習環境）の活用

④小学校での教科担任制の導入

⑤きめ細やかな習熟度指導体制の実施

⑥白川村の一貫教育の3つの特色

●どの子にも確かな学力をばぐくむ教育

●地域に根差した故郷学習を推進する学校

●英語学習を充実し国際理解力をばぐくむ学校

【成果と課題】

●「確かな学力の定着」について有効である

●「ふるさと学習」「英語学習」など、9年間一貫して取り組むことができる

●一貫教育は、教員の資質向上、授業力向上の場として有効である

●課題としては、これからの地域力低下が心配されるが、各地区の力を結集し、一つの大きな力としていきたい

●きな力としていきたいという思いが地域と学校で確認され、そうした機運により「学校運営協議会（コミュニケーションスクール）」の立ち上げに向かった。

分野別市民意見

交換会の報告

【11月27日】

高山市農業委員会

…9名

◎テーマ

●農業振興について

●主な意見

- 高山市の農畜産物を全国へPRや、海外の販路開拓への取り組みを
- 青年就農給付金について、国の制度の対象外の方に市独自の支援を
- 学校給食での地元農畜産物の利用促進等、地産地消の推進を
- 捕獲獣処分地の確保を
- 堆肥の活用方法を確立し、畜産農家の規模拡大への取り組みを